

報道関係各位

薬物乱用の根絶と再発防止に向け、地域全体で連携し啓発 薬物乱用防止教育「お薬教室」を開催しました

正しく薬や飲料を取り扱うことの大切さを子どもたちに解説

京都薬科大学(京都市山科区、学長:後藤直正)は11月4日(水)に、京都市立音羽小学校(京都市山科区)で6年生を対象とした薬物乱用防止教育「お薬教室」を、分析薬科学系 薬品分析学分野 武上教授と同分野所属の5年次生2名で開催しました。



教室では、「カフェイン」を題材に、カフェインの説明やカフェインに関するクイズを交え、普段、服用している薬や口にする飲料を正しく取り扱うことの大切さについて解説を行いました。参加した小学生からは、「カフェインの入った飲み物を飲むことで体にどんな効果や影響があるのかがわかった」「今度から買い物をするとき、飲み物や食べ物にカフェインが入っているかどうかを調べようと思った」などの感想が聞かれました。

現在、社会的に大麻所持の低年齢化は深刻かつ身近な問題となっています。こうした問題に対して、地域全体で連携して再発防止に取り組むことで薬物乱用の根絶を目指すべく、本学では2015年より京都市が中心となって実施している薬物乱用防止啓発活動に協力、参加しています。

薬物乱用は「違法な薬物を快樂のために用いる」というだけの問題ではなく、薬の用法・用量を守って正しく服用しなければ効果がないばかりか、自分の健康に害を及ぼす、ということの意識づけを通じて薬物乱用防止に貢献していくことを目指しています。

本件に関するお問い合わせ先

京都薬科大学 企画・広報課
担当:川勝・谷垣
TEL: 075-595-4691 FAX: 075-595-4750
kikaku@mb.kyoto-phu.ac.jp

(京都薬科大学の薬物乱用防止啓発活動について)

本学では2015年より京都市が中心となって実施している薬物乱用防止啓発活動に協力、参加しています。2017年からは近隣小学校での薬物乱用防止教室を行っており、「くすりの飲み方」や、「カフェイン」などを題材に、グループワークを交えながら解説を行っています。

2019年は、山科区内の市立安朱小学校で、本学1年次生約10名が京都市と協力して活動を行ったほか、京都市や山科警察署の方々と一緒に啓発グッズ(カイロ)の地下鉄駅前での配付を実施。また、市立音羽小学校では、小学校教員を対象にした武上教授による薬物乱用防止セミナーを行いました。